

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	1290500022
法人名	有限会社グループ春の日
事業所名	グループホーム春の日
訪問調査日	平成 20 年 12 月 5 日
評価確定日	平成 20 年 12 月 31 日
評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会

#### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

#### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 2008年12月31日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1290500022		
法人名	有限会社グループ春の日		
事業所名	グループホーム春の日		
所在地 (電話番号)	〒266-0005 千葉県緑区誉田町1-794-17 (電話) 043-226-9851		
評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	〒113-0021 東京都文京区本駒込3-15-10		
訪問調査日	平成20年12月5日	評価確定日	平成20年12月31日

平成20年11月22日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 5 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤	10 人, 非常勤 9 人, 常勤換算 14.75

### (2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	木造造り	
	2 階建て	1 階 ~ 2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,000円(生保者4.5万円)	その他の経費(月額)	15,000 円
敷 金	有(100,000円)(生保者)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円) (非生保者)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	400 円	昼食 500 円
	夕食	600 円	おやつ 200 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(11月22日現在)

利用者人数	18 名	男性	11 名	女性	7 名
要介護1	7 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	2 名		
年齢	平均 78.4 歳	最低	58 歳	最高	91 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	おゆみ野南医院、旭ヶ丘第一歯科クリニック、千葉整形外科
---------	-----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

1. 利用料金は、他のグループホームと比較して低価格です。このため、生活保護受給者の入居率が比較的高いと言えます。
2. 介護保険適用外の自主サービス(通院介助、役所等への手続き支援、買物支援、遠出のドライブ等)が利用者のニーズに沿って、きめ細かく提供されています。
3. 居室あたりの面積は12.64㎡と広いだけでなく、廊下も車椅子が2台同時にすれ違うことが出来る十分なスペースがあります。また、リビングや居室内に冬場でもたっぷり陽光が差し込みます。
4. 平成21年4月に併設のデイサービスが開業される運びとなり、それぞれのサービスの連携や合同イベント等による人的交流が実現されることとなります。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	主な改善課題は①地域密着型サービスの運営理念の構築、②地域との関係作り、③運営推進会議の設立、④介護相談員制度の導入、⑤家族等への報告、⑥職員育成、⑦ターミナルへ向けた方針の共有、⑧防災訓練で、①及び⑥項は達成、②及び⑧はかなり改善、⑤及び⑦はやや改善、④は導入申請済みで認定待ち、③は未達成の状況です。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、運営者と管理者が中心となって担当職員と話し合っており、すべての職員が自己評価の意義を理解して、評価に取り組むまでには至っていません。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は未だ設立されていません。また、家族と疎遠な利用者が過半数という事情も影響して、家族会も立ち上げるに至っていませんが、他方、協力的な家族もいます。この現状を踏まえて、推進会議の意義と目的を明らかにして、協力的な家族の方を代表にして、町内会役員、千葉県あんしんケアセンター(地域包括支援センター)、民生委員、ホーム代表をメンバーとする運営推進会議を早急に設立することが求められています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会頻度の高い家族には声かけをして、暮らしぶり等を伝えたり、意見等を聞いたりしています。体調不良時には、都度家族へ電話で連絡して対応を話し合っています。しかし半数を超える家族は利用者や疎遠で来訪することもなく、暮らしぶり等の報告や意見等の交換が困難な状況です。現状改善のため、月1回程度定期的に、簡単な家族通信のような形の書面で、本人の暮らしぶり等を家族に報告することが望まれます。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会とは良好な関係を築いており、地域の夏祭りや敬老会等の行事に参加したり、“ソーマン流し”ホーム行事に子ども会を招いたりしています。また、職員が率先して隣近所の人とも散歩等で挨拶を気軽に交わしたり、立ち話をしたりしています。最近ではお花を持って来る方も現れています。今後、公園掃除や夜間パトロール等の町内会活動に積極的に参加して、地域との関係作りを深める一方、ホーム行事の案内や地域高齢者の在宅介護相談等の広報活動の強化が望まれます。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「“ゆとり”をもってプライバシーの保護、尊重、尊厳等を大切にしながら、地域に溶け込んだ、その人らしい暮らしを支える」という新しい運営理念が作られています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	この新しい運営理念を念頭において日々の介護に当たっています。介護の実践において生じた困難な問題は月1回の業務ミーティング(全体職員会議)で運営理念に照らして、討議され、運営理念に適合しているかどうかを検証されます。	○	“ゆとり”という基本理念(見る、待つ、見極める)が玄関内正面に堂々と掲げられています。新しく作られた運営理念についても、職員全員が常時この理念を頭に入れ日々の介護に真に活かすために、各階の職員事務室の目に触れる場所に掲示しておくことが望まれます。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の夏祭り等の行事や、子ども会を招待して行うソーマン流し等のホーム行事を通して、町内会とは良好な関係が築かれています。また、地域で行われる恒例の敬老会に参加可能な利用者が参列しています。しかし、地元のホームへの理解は、まだまだ十分とは言えないように思われます。	○	ホーム行事の案内やホームニュース等を町内会等の地域に配布し、ホームの広報活動を通して地元のホームへの理解と協力を徐々に浸透させていくことが望まれます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は運営者と管理者が中心となって担当職員と話し合っており取り組まれています。しかし、自己評価と外部評価の意義を未だ理解していない職員が存在します。自己評価や外部評価で示された改善課題の取り組みについて全職員に当事者意識が浸透するには至っていません。	○	運営者、管理者が中心となって今回の自己評価と外部評価で示された改善課題に、全職員を巻き込んで取組まれる事が望まれます。改善課題の優先順位や適切な分担を決め、目標達成の期限を定めて取り組めば、効果が上がるものと思われます。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は未だ設立されるに至っていません。家族会は生活保護受給者(生保者)の家族を組織化するのが難しいこともあって立ち上げられていませんが、積極的に協力する家族の方もいるとのことです。他方、行政サイドからの協力はなかなか得にくいようです。	○	運営推進会議の意義と目的を明らかにし、とりあえず賛同していただければそうなるメンバーとして、協力的に積極的な家族、町内会役員、民生委員、千葉市あんしんケアセンター(設立準備時から声かけ、参加をお願いすることが望ましい)等を組織化することにより、早急に設立することが求められています。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生保者の関係事項処理のために社会援護課、介護保険更新手続き・介護相談員受け入れのために介護保険課、あるいは障害者のために障害福祉課等の区役所担当課に対し、必要に応じてコンタクトし、相談に乗ってもらっています。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回家族に対し電話で本人の暮らしぶり等が報告されています。また、生保者の方についても毎月1回社会援護課に報告がなされています。家族の面会時や本人の体調不良時にはその都度口頭で伝えられています。請求書は毎月1回家族へ送付されています。	○	面会に殆ど来ない家族が半数を超えているので、今までのやり方では十分とは言えません。家族アンケートで職員による外出支援について「分からない」との回答が多いことから、外出支援情報等も記載した、本人の暮らしぶり等についての簡単な家族通信を毎月1回請求書と共に送付することが望まれます。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に意見等の窓口としてホーム、介護保険課、国保連合会、民生委員を明記し、家族へ説明しています。他方、家族の面会時に声かけをし、意見等を聞くよう努めています。運営推進会議が設立されていないため、意見等が述べられる機会が提供されていません。	○	運営推進会議で家族等の意見をオープンに、議題に乗せて、対応策を検討し、ホームの運営に活かすことが望まれます。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニット目開設後4～5ヶ月して、業務に不向きな職員が退職しましたが、そのときは利用者が3名と少なく短期間でもあったので、特に影響はなかったということです。職員の離職防止のため、休憩室や屋外での自由な息抜きを認めたり、報酬面での改善等に取り組んでいます。代わる場合は状況を踏まえた交代の工夫がなされています。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	レベルに応じた年間の研修計画を立てています。市主催の認知症介護実践研修等基礎・専門研修に参加しています。受講者は月1回の定例業務ミーティングで他の職員へ研修内容を報告しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区内のグループホーム連絡会に加入し、2ヶ月1回開催の定期会合にレベルに応じて職員が意見交換会、勉強会等に参加していますが、同業者との相互訪問は行っていません。また、他の介護関係事業所との意見交換が実施されています。	○	ホームの運営の改善や職員のレベルの向上のために、同業者との相互訪問を通して、互いに教訓、助言等を交わすことが望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居を決める前に、ホームの見学をしてもらい、昼食を一緒に食べたり、ゲームをしたりしてホームの雰囲気を感じてもらいます。他の施設に入所中・入院中の人には職員が会いに行き、なじみの関係が出来るように努めています。入居が決まると、カンファレンスを開き、安心して入居できる体制を作るようにしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	自分がされて嫌なことはしないということを十分認識し、利用者の尊厳・尊重を重要視した関係作りを行っています。植物の名前や育て方を教えてもらったり、戦争体験の話から、日本の今があることの歴史を教えてもらったりします。職員は利用者に「ありがとう」と言われることで癒され、この仕事をしている喜びを感じています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員制をとることで、しっかりした信頼関係を築き、本人と家族の意向・希望が正確に把握できるようになっています。本人の意向の把握が困難な場合はADL調査表も参考にしています。担当者が把握したことは、担当者会議やカンファレンスを通して、全職員が共有できるようにしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向は担当者が把握し、家族と担当者、ケアマネジャーが話し合いを行います。かかりつけ医の意見も取り入れて、本人の意向を中心としたその人らしい生活課題の計画書を作っています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の評価を行っていますが、途中変化があった時は、家族・かかりつけ医・担当者・ケアマネジャーで計画書の見直しをしています。入院した利用者が退院する時には病院側と話し合いを持ち、情報提供書・看護サマリーを貰って同じように計画書を見直します。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望に応じて、通院介助、介護保険の更新等の公的な手続き、障害者手帳の申請代行・申請への付き添い等行っています。ドライブで桜や紅葉、クリスマスのイルミネーション見物に出かけたりもしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、本人・家族の希望するかかりつけ医への定期受診の支援をしています。家族が連れて行けない時は、同行支援しています。在宅時にかかりつけ医を持っていなかった利用者や大病院から退院した利用者には、ホームが提携している病院を紹介しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、重度化した場合の家族の意向を聞いています。重度化した場合は、家族の意向を再確認して、家族・かかりつけ医・担当職員・管理者で話し合いを持っています。現在2名のターミナル期の利用者を、24時間オンコール体制で連携の取れている医師・看護師を中心に話し合いを持ちながら、見守り支援しています。	○	現在でもすでに、ターミナル期の方を同時に2人も看ることは、職員にとって大変です。もっと重度の方が重なった場合などには、施設として、出来る事・出来ない事を見極めることが大事となります。指針を作ってそれに沿って、重度化した場合は関係する人たちで度々の話し合いを持ち、方針を共有する体制を作ることが望まれます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	サービスマニュアルを作成し、入社時とミーティングの時1年に1回は、プライバシーについて研修しています。利用者は人生の先輩という認識を持って係り、言葉かけには十分注意しています。個人情報、口外しない、外へ持ち出さないことを徹底し、書類は鍵のかかる戸棚に保管しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	タイムスケジュールはありますが、幅を持たせて、何をするにも本人の希望に添うよう、職員全員で意志統一しており、得意な事を見つけて依頼し支えるようにしています。習字の好きな人には張り紙を書いてもらい、計算の好きな人には電卓での仕事をしてもらったり、外に出かけたい人とは、一緒に出かけたりしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立も食材も業者に依頼し、賄を採用しています。食事の好み・制限は十分把握し配慮しています。下膳は自分でやる方が多いようです。月に1回は食事会を開き、鍋パーティー、カレーパーティーなどで自分が出来ることを担当してもらい、職員も一緒にいただきます。おやつ作りを一緒にやって楽しんだりもしています。	○	日々の食事で職員は、配膳見守りを行うだけで一緒には食べていません。職員が、一緒に食卓につき、同じものを食べることで、食事の味も形態も実感でき、食欲のない人への勧めかたも変わってくるし、話に花が咲き、楽しく食べる体制を作ることが望まれます。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	風呂は毎日午後1時～8時頃まで沸かします。一人ずつお湯を入れ替えています。本人の希望で毎日でも入れます。少なくとも週3回は入ってもらっています。どのような状態の人も浴槽にしっかりつかってもらうため、利用者により、見守りだけにしたたり職員2人で介助したりしています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	私の役割は、「お掃除よ」「お絞たたみよ」「花の水やりよ」等と感じて、毎日行っている利用者には、楽しくやれるように支援しています。買い物に出たい、郵便局にお金を下ろしに行きたい利用者とは、一緒に出かけています。家庭菜園の好きな利用者達が、トマト・ほうれん草・小松菜などをつくり、皆で食べています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望があると散歩に出かけます。散歩中に出会った人からお花を貰ったり、野菜をもらったりのふれあいがあります。服や下着の買い物に出たり、役所にも一緒に出かけます。2週に1回はドライブにも出かけています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各居室には鍵がなく、職員は鍵をかけることの弊害を理解して係っています。玄関と門の鍵は、日中はかけていませんが、人手が少なくなる午後8時以降はかけています。玄関にはセンサーを設置予定とのことです。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いの消防訓練と自主防災訓練が年計2回実施されています。防火管理者が指名され、研修を受けさせています。町内会との合同訓練は実施されていません。	○	運営推進会議が設立された暁には、地元の理解と協力が得られるよう防火対策について話し合い、協力体制を築くことが期待されます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材提供業者の栄養士によって、カロリー計算がなされ、2週間分の献立が出来ています。カロリー制限食、特別食も作られ、それぞれのその日の食事量、水分量が記録されています。異常が見つかったら、医師や看護師に報告相談しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、居間等の共用部分は明るく、掃除も行きとどき、清潔さが保たれています。居間の壁には壁時計、手作りのカレンダー、ジグソーパズルの富士山等が掛けられ、廊下の壁には色鉛筆のぬり絵作品、習字等が貼ってあります。そのほかに、クリスマス関係の折り紙リース、ツリー、サンタ人形等が居間に設えてあり、季節感が出るよう配慮されています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた小タンス、テレビや湯沸しポット等の家電品、馴染みのぬいぐるみや安楽椅子等が持ち込まれています。また、貼り絵等の作品、結婚写真や懐かしい思い出の写真が壁に貼られています。身寄りのない利用者の居室にはホームが中古のテレビや家具、備品等を提供して、快適に暮らせるよう配慮しています。		